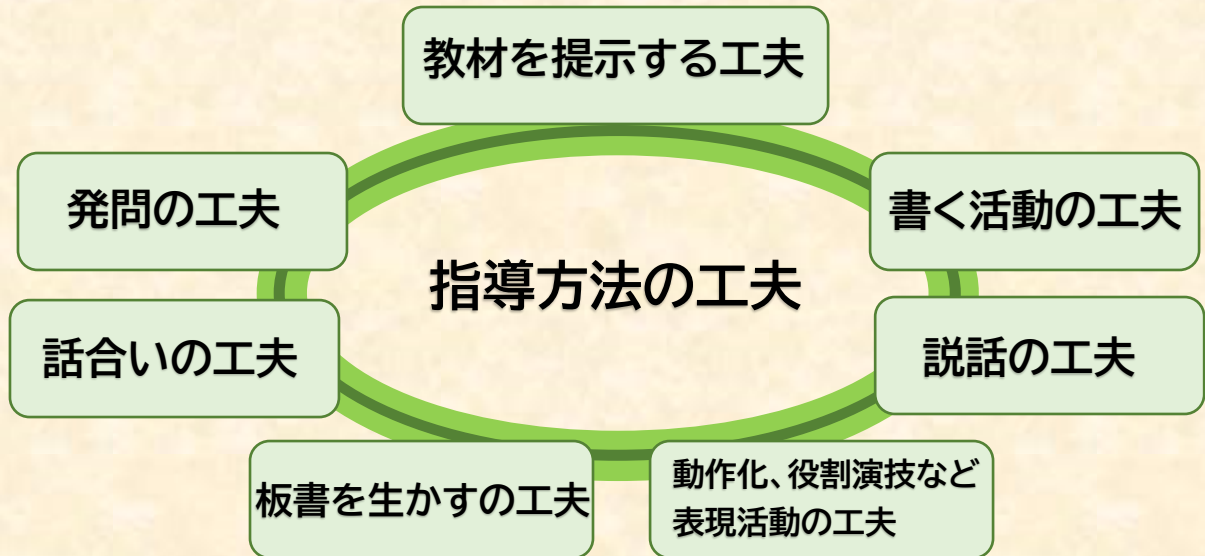


# 「考える道徳」「議論する道徳」の工夫と改善 ～指導方法の充実を通して～

小学校では平成 30 年度から、中学校では今年度から道徳科が教科となった。児童・生徒の豊かな心を育むために、より一層の道徳授業の改善が求められている。道徳科の特質を理解し、教師と児童・生徒、児童・生徒相互の信頼関係を基盤におき、指導方法を工夫しなければならない。

## 1、指導方法の工夫とは

学習指導要領には、道徳科の目標達成のために様々な指導方法の工夫について以下が紹介されている。



上記の指導方法の工夫を行い、児童・生徒が自らのよさや成長を実感できるように工夫することが求められる。室蘭市教育研究所道徳グループでは、今年度「教材を提示する工夫」と「発問の工夫」について研究を深めた。

### (1)教材を提示する工夫

多くの場合、導入後に教材を提示するであろう。そもそも導入は、主題に対する児童・生徒の興味や関心を高めることが重要となる。導入の具体例としては、「本時の主題に関わる問題意識をもたせる導入」、「教材内容に興味や関心を持たせる導入」などが考えられる。興味や関心を高めてから、教材を提示することが大切と言われている。ここでは、教材を提示するポイントを紹介する。

教材を理解させることは重要ですが、いわゆる「読み取り道徳」にならないように留意しないように気を付けよう。「考える道徳」「議論する道徳」のために教材の内容を把握するのです。



ポイント	指導法の具体例
教材をしっかりと理解させること	○子供の発言を教材につなぐ 児童生徒の実体験の話から教材へつなげることで、興味・関心を引き出す。
時間をかけすぎないこと	○時間軸にそって場面を確認する 場面にそって要点をまとめ、話の流れを整理する。板書して視覚的に確認できるとより教材内容の理解が深まる。
	○挿絵を利用する 文字以外の情報から教材の内容を考えさせて興味を引く。 登場人物の表情や様子などを視覚的に確認する。

## (2)発問の工夫

道徳科の授業を構想する際は、中心的な発問から決めると考えやすいと言われる。発問を考えると、目指す道徳性の諸様相(道徳的判断力、心情、実践意欲と態度)と照らし合わせるのが肝要だ。道徳的諸様相の確認と発問例などをまとめてみた。

道徳性の諸様相	説明	発問例
道徳的な判断力	・それぞれの場面において善悪を判断する能力 ・様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力	・～したのは、どんな考えがあったからか。 ・～したとき、どんなことを考えていたか
道徳的な心情	・道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のこと ・人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情	・～したとき、どんな思いでそうしたのか。 ・どんな気持ちだったのだろうか。
道徳的実践意欲と態度	・道徳的判断力や道徳的心情によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性 ・道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働きであり、道徳的態度は、それらに裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え	・△が大切にした生き方とはどんな生き方か。 ・△を支えたものは何か。

児童・生徒の実態、本時のねらいなど総合的に判断し、よりよい発問を探求していくことが重要だ。

こんな発問をしたら、多分児童・生徒は〇〇と答えるだろうな……など反応例を想定しておくことが大切です。「発問のだぶり」や「本時のねらいとは関係ない発問」に気づきますよ。



### 参考文献

特別の教科 道徳 学習指導要領解説編

『小学校道徳 指導スキル大全』永田繁雄編著 明治図書